Shiga Museum of Art
滋賀県立美術館

提供年月日:令和5年(2023年)2月17日
所　属　名:滋賀県立美術館
担当者名:福山(広報担当)、田野
連　絡　先:077-543-2111
E-mail:museum@pref.shiga.lg.jp

滋賀県立美術館　企画展

「小倉遊亀と日本美術院の画家たち展

横山大観、菱田春草、安田靫彦、前田青邨、速水御舟ほか」

2023年4月29日(土・祝)～6月18日(日)

前期:5月21日(日)まで、後期:5月23日(火)から

①小倉遊亀《径(こみち)》1966年（昭和41)、東京藝術大学蔵、通期

［見どころ］ ＊25歳で安田靫彦(ゆきひこ)に師事した後、105歳で没する最晩年まで、日本美術院の画家たちと交流・研鑽しながらひたむきに描き続けた小倉遊亀(おぐらゆき)の画業と、それを育んだ日本美術院の俊英たちの活躍を紹介。

＊滋賀県立美術館のコレクションから、遊亀の《姉妹(あねいもと)》、安田靫彦の教科書などでもよく知られる《飛鳥の春の額田王》《卑弥呼》、そして速水御舟(はやみ ぎょしゅう)の《洛北修学院村》をはじめ、近代日本画を代表する名品の数々を、一挙公開。

＊当館の遊亀作品に加え、《径》(東京藝術大学蔵)、《舞妓》(京都国立近代美術館蔵)(いずれも通期展示)など代表作4点と、アトリエに残されていた原稿などの資料を、借用して展示。

＊滋賀県大津市出身の日本画家である遊亀の代表作品をまとめて見られる展覧会は、当館では2014年以来9年振りの開催。

＊展示室1の常設展示においても、関連展示「小倉遊亀の弟子たち」として松室加也子、堀川公子などの作品を紹介。

1. 本展について

1984年(昭和59)に開館した滋賀県立美術館(当時は滋賀県立近代美術館)は、2024年に40周年を迎えます。これを記念して、当館のコレクション形成に大きく尽力した小倉遊亀を一望する展覧会を開催します。初期から晩年にわたる当館所蔵品を中心に、各地で収蔵されている代表作や、アトリエに残された下絵や原稿などの資料も加えて展示します。

遊亀が制作発表をしたのは、横山大観や菱田春草らが東京で興した日本美術院です。当館は「日本美術院を中心とした近代日本画」を収集方針のひとつに定め、関西圏に所在する美術館でありながら日本美術院に注目するという、独自性と厚みをもつコレクションを実現してきました。そこには遊亀に影響を与えた、師の安田靫彦や先輩の速水御舟らの作品を含みます。

本展では、それらの作品をあわせて約90件(会期中展示替えあり)を紹介します。

遊亀の作品は、理知的な造形に、相反するようなぬくもりが感じられます。対象を構想や概念で捉えるのではなく、本質を見る遊亀の目がそこにあります。当館では9年ぶりとなる遊亀展をお楽しみください。

2. 開催概要

展覧会名:企画展「小倉遊亀と日本美術院の画家たち展 横山大観、菱田春草、安田靫彦、前田青邨、速水御舟ほか」

会　　期:2023 年 4 月 29 日(土・祝)～6 月 18 日(日)　会期中展示替があります。

前期:5 月 21 日(日)まで、後期:5 月 23 日(火)から

休 館 日:毎週月曜日

開館時間:9:30～17:00(入場は 16:30 まで)

会　　場:滋賀県立美術館　展示室3

観 覧 料:一般 1,200 円(1,000 円)

高校・大学生 800 円(600 円)

小学生・中学生 600 円(450 円)

※(　)内は 20 名以上の団体料金

※展示室1・2で同時開催している常設展も観覧可

※未就学児は無料

※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方は無料

主　　催:滋賀県立美術館

制作協力:NHK プロモーション

企　　画:田野葉月(滋賀県立美術館 主任学芸員)

②小倉遊亀《画人像》1962 年 (昭和 37)、滋賀県立美術館蔵、通期

3. 小倉遊亀について

小倉遊亀(1895-2000)は滋賀県大津市生まれ。遊亀(ゆき)は本名。現在の奈良女子大学を卒業して教職に就くも、日本画家になるため安田靫彦に入門。遊亀が参加した日本美術院は、1898年(明治31)に岡倉天心を中心として、東京美術学校で彼に教わった横山大観、下村観山、菱田春草らが東京谷中で結成した在野の美術研究団体。遊亀は1932年

（昭和7）に女性初の日本美術院同人に推挙されます。1980年（昭和55）文化勲章受章。1990年（平成2）より日本美術院理事長を務めました。

4. 章構成について

第１章　日本美術院の再興とそこに集った画家たち

小倉遊亀（1895-2000）の画業を紹介する本展では、遊亀が作品を発表し続けた日本美術院について、その創設から大正期までを第１章にて紹介します。

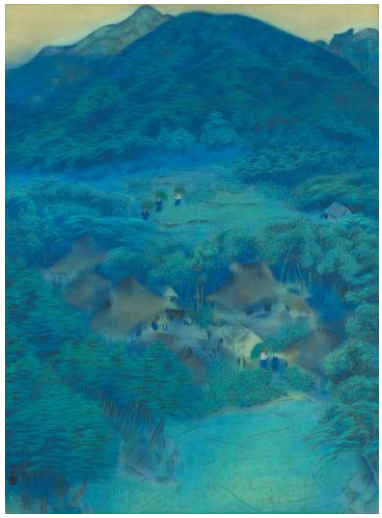
日本美術院は明治31年（1898）、東京美術学校の校長も勤めた岡倉天心により、東京谷中に在野の研究所として創設されました。同院には、横山大観や下村観山、菱田春草、木村武山らが参加しました。

大正3年（1914）に日本美術院は再興されました。そのきっかけは、天心が没したことによります。大観と観山らが発起人となり、公募展を行う団体として再出発しました。日本美術院の展覧会（再興院展）に集った画家には、今村紫紅や速水御舟、小茂田青樹、安田靫彦、小林古径、前田青邨らが挙げられます。彼らは文展で既に活躍していた若手で、同展でも時代をリードする問題作を発表してゆきます。大正という時代のもと、再興院展の自由で個性豊かな作品は注目を受けました。また、大観ら審査員も出品ごとに、後進を導く意欲作を世に問いました。遊亀は彼らの作品を見ることで、画家として目覚めていきました。

③小茂田青樹《四季草花図　夏・冬》1919 年（大正 8）、滋賀県立美術館蔵、前期

④速水御舟《菊花図》 1921 年（大正 10）、個人蔵（滋賀県立美術館寄託）、後期

⑤横山大観《鳴之浦絵巻》（部分）1918 年（大正 7）、
滋賀県立美術館蔵、通期



⑥速水御舟《洛北修学院村》1918 年（大正 7）、
滋賀県立美術館蔵、前期

第２章　日本美術院の発展と小倉遊亀

小倉遊亀は明治28年（1895）滋賀県大津市に生まれました。奈良女子高等師範学校（現、奈良女子大学）で国語漢文部を修めると、画家として生計を立てるよりも、教鞭を執るかたわら制作を行うスタイルをとりました。しかしながら画家への道を諦められず、大正9年（1920）神奈川県大磯に安田靫彦を訪れ、弟子入りを志願します。

日本美術院を身近な存在に感じていた遊亀は、靫彦に付いてから5年後の大正14年（1925）、《童女入浴》を再興第12回院展へ初出品します。落選ではありましたが、翌年より連続入選し、日本美術院友を経て、昭和7年（1932）には女性初の同人（どうにん）に推挙されました。

第１節　画家の誕生

遊亀は入門した当初、歴史画流行への憧れを持ちつつも、キュビスムの造形性に感化されて静物画を描いてみたいという意志を持っていました。速水御舟の《菊花図》（大正10年）を見て、自然に対する敬虔な態度に触れて、自分の概念的なものの見方が間違っていたと知るのもこの頃です。このように遊亀の作品は、彼女自身が作品を発表した再興院展の諸先輩から影響を受けていると言えます。

30代後半の遊亀は教師と画家、さらに母親を看護する生活で心身に疲れを感じていました。修養道場の報恩会へ通うようになると小林法運（ほううん）より、執念を断ち切りすべてを捨てることは、すべてを得ることだと教えられました。また山岡鉄舟（てっしゅう）門下の禅徒である小倉鉄樹（てつじゅ）を北鎌倉に訪ね、その教えを受けました。昭和13年（1938）鉄樹と結婚し、北鎌倉に住まうこととなります。忙しいなかにもその後の遊亀を形成するものが詰まった充実した時期でした。

⑦小倉遊亀《挿花少女之図》1927 年（昭和 2）、福田美術館蔵、通期

第２節　作風の展開

遊亀の作風が確立されたのは戦後です。本節では、代表作が生み出された戦後から晩年までの作品のうち、第３節で紹介する静物画以外を紹介します。

初期から人物画を描き続けていた遊亀は、院展の常道である歴史画を手がけるのではなく、《娘》（昭和26年）に代表されるような現代女性を描きました。「石でも木でも人間でも同じである」という境地は、対象を客観的に観察する大切さに思い至ったものです。遊亀の特徴でもあるデフォルメされた形態は、俵屋宗達が形に対して持っている敏感な感覚や鋭い目に学んだものです。《姉妹》（昭和45年）は子供ならではの愛らしい動作に画家の観察が行き届いた作品で、瞬間の表情に心理描写が見られると評価されます。「子供はそれぞれに個性を持っていて、いつまで見ていても飽きない」と語っているように、日常の何気ないしぐさに姉妹の違いが出ています。

遊亀は大正15年（1926）以降、再興院展に連続入選し、昭和3年（1928）日本美術院友、昭和７年（1932）同人を経て、昭和53年（1978）日本美術院理事に就任、平成2年（1990）には第3代理事長として重責を担いました。また、昭和55年（1980）に文化勲章を受章しました。これは女性画家として上村松園に次いで2人目の快挙でした。

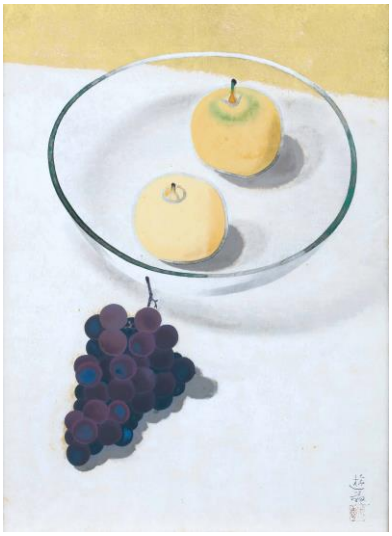
⑧小倉遊亀《美しき朝》1952 年（昭和 27）、個人蔵、通期

⑨小倉遊亀《舞妓》1969 年（昭和 44）、
京都国立近代美術館蔵、通期

⑩小倉遊亀《姉妹》1970 年（昭和 45）、
滋賀県立美術館蔵、通期

第３節　得意とした静物画

遊亀は入門した当初から静物画に取り組みたいと語り、のちに高く評価されるに至っています。本節では、戦後における制作のうち、静物画に特化して見てゆきます。



⑪小倉遊亀《葡萄》1959 年（昭和 34）、
滋賀県立美術館蔵、通期

鞆彦に入門した日、遊亀は何を描いても同じようなものにしかならない悩みを伝えたところ、以下の言葉を授けられました。「自分を出そうとしなくても、見た感じを逃さぬように心掛けてゆけば、その都度違う表現となっていつの間にか一枚の葉っぱが手に入りますよ。一枚の葉っぱが手に入ったら、宇宙全体手に入ります。」この教えを、遊亀はその後の指針としました。そして、静物画のような一見何の変哲もない対象を描いてゆく際、この教えが真理となって道を照らしたでしょう。

遊亀の住まいにちなんで、描かれた静物画は「北鎌倉の特産品」と鞆彦に言わしめます。本質をつかみ得た画境は、鞆彦に教えられた「一枚の葉っぱ」を手に入れたものと言えます。

第３章　花開く日本美術院芸術

第３章では、遊亀が参加した日本美術院の画家のうち、昭和期に制作された、遊亀以外の作品を紹介します。遊亀は昭和７年（1932）同人に推挙され、日本美術院の運営に携わる立場になりました。同人は、公募展の鑑査、審査を行うなど展覧会開催に関わるとともに、また無鑑査の資格をもつ者として、たゆまぬ努力によって後進に道を示すような作品を毎回発表し続ける重責を担います。ゆえに本章で展示されているのは、遊亀にとってゆかりのある画家たちの作品です。

日本美術院が後世に伝えるべき日本画を代表する作品を生み出し得たのは、安田鞆彦や小林古径、前田青邨ら優れた画家を抱えていたことに加え、小倉遊亀のような新しい世代が日本美術院に集ったからでしょう。

⑫安田鞆彦《飛鳥の春の額田王》1964 年（昭和 39）、
滋賀県立美術館蔵、通期

5. 関連イベント

最新情報や詳細は当館 HP にて御確認ください。
要事前申込はネットからのお申込みが必要です(「たいけんびじゅつかん」は往復ハガキも可)。
申込開始はいずれも4月1日です。

◆体験&トーク ※要事前申込(抽選)
日 時:2023年 5 月 13 日(土)14:00～(約 120 分)
演 題:金継ぎと小倉遊亀
講 師:ナカムラクニオ(6次元主宰／美術家)
対 象:小学生以上
定 員:20 名
会 場:滋賀県立美術館 ワークショップルーム
参加料:1,000 円+要本展チケット

◆対談 ※要事前申込(先着順)
日 時:2023年 6 月 11 日(日)14:00～(13:30 開場／約 90 分)
テーマ:歴代学芸員から見た、遊亀と日本美術院の画家たちの魅力
ゲスト:髙梨純次(公益財団法人秀明文化財団理事、元滋賀県立近代美術館学芸課長)
國賀由美子(大谷大学教授、元滋賀県立近代美術館専門学芸員)
聞き手:山口真有香(滋賀県立美術館主任学芸員)
定 員:75 名
会 場:滋賀県立美術館 木のホール
聴 講:無料

◆ギャラリートーク ※当日先着順
日 時:2023年 5 月 20 日(土)、6 月 4 日(日)14:00～(13:30 受付開始／約 60 分)
定 員:各回 20 名程度
会 場:滋賀県立美術館 展示室3
参加料:無料(ただし本展のチケットが必要)

◆たいけんびじゅつかん「顔彩(がんさい)で描いてみよう」 ※要事前申込(抽選)
内 容:子どもたちを対象とした展覧会鑑賞と創作のワークショップ
開催日:2023年 4 月 30 日(日)、5 月 28 日(日)
対 象:小・中学生とその保護者
定 員:各回 15 名
会 場:滋賀県立美術館 ワークショップルーム、展示室3
参加料:200円 *保護者の方は観覧料(団体料金 1,000 円)が必要

※それぞれのイベントは都合により、内容・日時等が変更になる場合があります。
イベントの詳細や最新情報は当館 HP 等で御確認ください。

6. 同時期に開催する展覧会(常設展)

企画展関連展示「小倉遊亀の弟子たち」(展示室1 小倉遊亀コーナー)
2023年 4 月 4 日(火)～6 月 18 日(日) *5 月 8 日(月)～5 月 12 日(金)は休室

「百華爛漫」(展示室1)
2023年３月14日(火)～５月７日(日)

「近代洋画のアンサンブル」(展示室1)
2023年５月13日(土)～６月18日(日)

「川内倫子と滋賀」(展示室2)
2023年１月11日(水)～５月７日(日)

「SMoA コレクション -アール・ブリュット-」(展示室2)
2023年５月13日(土)～６月18日(日)

7.次回開催予定の展覧会(企画展)

今森光彦　里山 水の匂いのするところ
2023年７月８日(土)～９月18日(月・祝)

8. プレス内覧会

(1)開催日時　2023年4月28日(金) 13時～受付開始

(2)会場　滋賀県立美術館(大津市瀬田南大萱町1740－1)

(3)タイムスケジュール

13:00～　プレス受付開始
13:30～14:10　展覧会場内覧(展示室3)
14:10～14:50　説明会(木のホール)
・保坂ディレクターによる御挨拶
・展覧会内容紹介(担当学芸員)
・質疑応答
14:50～　自由取材

(4)参加申込み

参加を希望される方は、返信表に必要事項を御記入の上、2023年4月27日(木)12時までに、メールまたはファックスにてお知らせくださいますようお願いいたします。

お車でお越しの場合は、びわこ文化公園の駐車場(無料)を御利用ください。大型撮影機材等の持込みのために、美術館敷地内への駐車を希望される場合は、その旨を通信欄に必ず御記入いただきますようお願いいたします。

(5)注意事項

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、プレス内覧会の内容変更や開催中止となる場合があります。中止の場合は、参加申込みの際にいただいた御連絡先にお知らせいたします。

■注意事項
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、関連のガイドラインも踏まえ、必要な対策を講じてまいります。それに伴い、急な御案内の変更などが生じてくる可能性があります。詳細は、当館ホームページ(https://www.shigamuseum.jp/)を御確認ください。

プレス内覧会参加返信表

申込期限:4/27(木)12時

滋賀県立美術館行き

Fax　:077-543-2170
Email:museum@pref.shiga.lg.jp

＜必要事項＞

1)貴社名　：

2)御芳名　：

※参加される方すべての御芳名を記入してください。

3)参加人数:

4)ＴＥＬ　：

5)E-mail　：

6)通信欄　：

広報用画像申込書

滋賀県立美術館　教育・コミュニケーション室行き
Fax：077-543-2170　　E-mail：info@shigamuseum.jp

展覧会広報用素材として、作品画像等を用意しております。御希望の方は使用条件をお読みいただき、必要事項を御記入のうえ、FAXまたはメールにてお申し込みください。

****

媒　体　名：
種　　別：テレビ　ラジオ　新聞　雑誌　フリーペーパー　ネット媒体　その他
発売・放送予定日：
御　社　名：
御担当者名：
E-mail：
TEL：
招待券希望枚数：　　枚（送付先住所：　　）

御希望の画像に✔をつけてください。

□	①小倉遊亀《径》1966年、東京藝術大学蔵、通期
□	②小倉遊亀《画人像》1962年、滋賀県立美術館蔵、通期
□	③小茂田青樹《四季草花図　夏・冬》1919年、滋賀県立美術館蔵、前期
□	④速水御舟《菊花図》1921年、個人蔵（滋賀県立美術館寄託）、後期
□	⑤横山大観《鳰之浦絵巻》（部分）1918年、滋賀県立美術館蔵、通期
□	⑥速水御舟《洛北修学院村》1918年、滋賀県立美術館蔵、前期
□	⑦小倉遊亀《挿花少女之図》1927年、福田美術館蔵、通期
□	⑧小倉遊亀《美しき朝》1952年、個人蔵、通期
□	⑨小倉遊亀《舞妓》1969年、京都国立近代美術館蔵、通期
□	⑩小倉遊亀《姉妹》1970年、滋賀県立美術館蔵、通期
□	⑪小倉遊亀《葡萄》1959年、滋賀県立美術館蔵、通期
□	⑫安田靫彦《飛鳥の春の額田王》1964年、滋賀県立美術館蔵、通期

****

［使用条件］

※広報用画像の掲載には、各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※当館からの指定がない限り、トリミングは御遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトに御配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正原稿を当館へお送りください。原稿確認を行わず誤った情報が掲載された場合、当館では責任を負いかねます。

※アーカイブのため、後日、掲載誌（紙）、URL、番組収録の DVD、CD などをお送りください。

※画像は本展の広報のみの御利用となります。御利用後は必ずデータを破棄していただくようお願いいたします。

※読者プレゼント用の招待券の提供を御希望の場合は、本申込書の記載欄に御記入ください。